



高齢者に喜ばれる
サービス 特集

せいえい
三つ星
リポート
☆☆☆

“キラリ”と輝く経営事例

Part
1

すぎとよくじょう
杉戸浴場

経営者：宇山 祥子 氏

創業：昭和 24 年

営業所：愛知県一宮市大宮 3-3-20

従業員：2 名

電話：0586-73-6085



☆☆☆
地元のお年寄りで賑わう銭湯

日本三大七夕祭りの一つ「一宮七夕まつり」で有名な愛知県一宮市。そんな一宮市で昭和24年から続く杉戸浴場は、地元のお年寄りでもいつも賑わう人気の銭湯です。

経営者の宇山さんは、創業者の孫で、先代の父・譲二せいじさんから杉戸浴場を引き継ぎました。現在は母・弘子ひろこさんと2人で銭湯を切り盛りしています。宇山さんは、「以前は銭湯を継ぐなんて全く考えていませんでしたが、父の葬儀に常連のお客さんが大勢参列してくれて、『杉戸浴場を続けて欲しい』と声を掛けてくれたんです」と振り返ります。

常連客からの期待の声に背中を押され、銭湯を継ぐことを決めた宇山さん。しかし、当時は利用客が減少しており、このままではいけないと感じていたそうです。

☆☆☆
お年寄り向けのイベントを
開催することで利用客が増加

そこで、宇山さんがまず考えたのは、



上：「すぎと亭さち」として高座に上がる宇山さん 下右：清掃の行き届いたきれいな浴場。季節ごとのイベント湯も楽しめる（写真右下は晚白柚） 下左：イベントの会場にもなる脱衣所

お年寄り向けのイベントを開催することでした。杉戸浴場の周辺は古くからの住宅街で、現在は高齢化が進んでいる地域でもあります。もともと利用客の多くはお年寄りでしたが、イベントで杉戸浴場の認知度が高まれば、更に多くの地元のお年寄りに来店してもらえるのではと考えたそうです。

イベントは営業時間外の午前中や定休日を利用して開催しており、なかでも人気なのが、これまで30回以上開催

してきた「すぎと寄席」です。

これは、常連客のお年寄りがテレビ番組「笑点」の始まる時間になると、脱衣所のテレビの前に集まる姿から思いついたもので、2カ月に1回のペースで定期的に開催しています。

宇山さん自身もDVDや動画サイトを見て独学で落語を学び、「すぎと亭さち」として毎回違ったネタを披露しています。

地域の社交場として愛される銭湯

～お年寄りに、楽しく元気な日常を提供～

参加費（お茶とお菓子代込で1000円）が必要なイベントですが、新ネタを楽しみに毎回多くのお年寄りで賑わいます。

そのほか、脳を鍛える連想ゲーム、ジャズの演奏家を招いたセラピーなどを行う「つどいのサロン（週1回）」や、ボディビルディングの専門家を講師に迎え、いつまでも元気に外出するために足腰を鍛える「転ばぬ先の体操教室（月1回）」、お薦めの銭湯を宇山さんが案内する「オトナの遠足・銭湯めぐり（不定期開催）」など、ユニークで多彩なイベントを企画。どのイベントも好評で、お年寄りを中心に多くの参加者が集まっています。

また、これらのイベントの参加者が銭湯を利用するようになるなど、銭湯を継いだ当時は、1日60名程度だった利用客が150名以上にまで増えたそうです。「自分が年を取った時に、こんなイベントあったらいいな、こんな銭湯あったらいいな、という発想で企画してい

ます」と楽しそうに話す宇山さん。「全てのイベントに共通するのは『お年寄りに銭湯を通じて、仲間と楽しく、元気に過ごす日常を提供したい』という想いです」と教えてくれました。

☆☆☆ 今後の杉戸浴場

杉戸浴場では、これらのイベントのほかにも店内で地元の農家直送の野菜を販売したり、昔ながらの銭湯の魅力をSNSなどで発信したりするなど、子供連れや若い世代の集客にも乗り出しています。宇山さんは、「銭湯は昔から地域の社交場でした。杉戸浴場ではその文化を大切にしていきたいと考えています。今後はお年寄りと子供・若い世代の方が交流できるような場所に杉戸浴場をしていきたいです。そうすることで、お年寄りは一層楽しく、元気に過ごせるようになると思うんです」と語ります。

高齢化する地域社会に合わせたサービスを、次々に企画・提供することで、ファンを増やし続けている杉戸浴場。宇山さんのユニークな取り組みは、これからも地元のお年寄りに楽しく、元気な日常を提供してくれることでしょう。